

●2019年5月に公開したデータ数は約10,000件

（「周辺の放射性物質の分析結果」「日々の放射性物質の分析結果」のデータ公開）

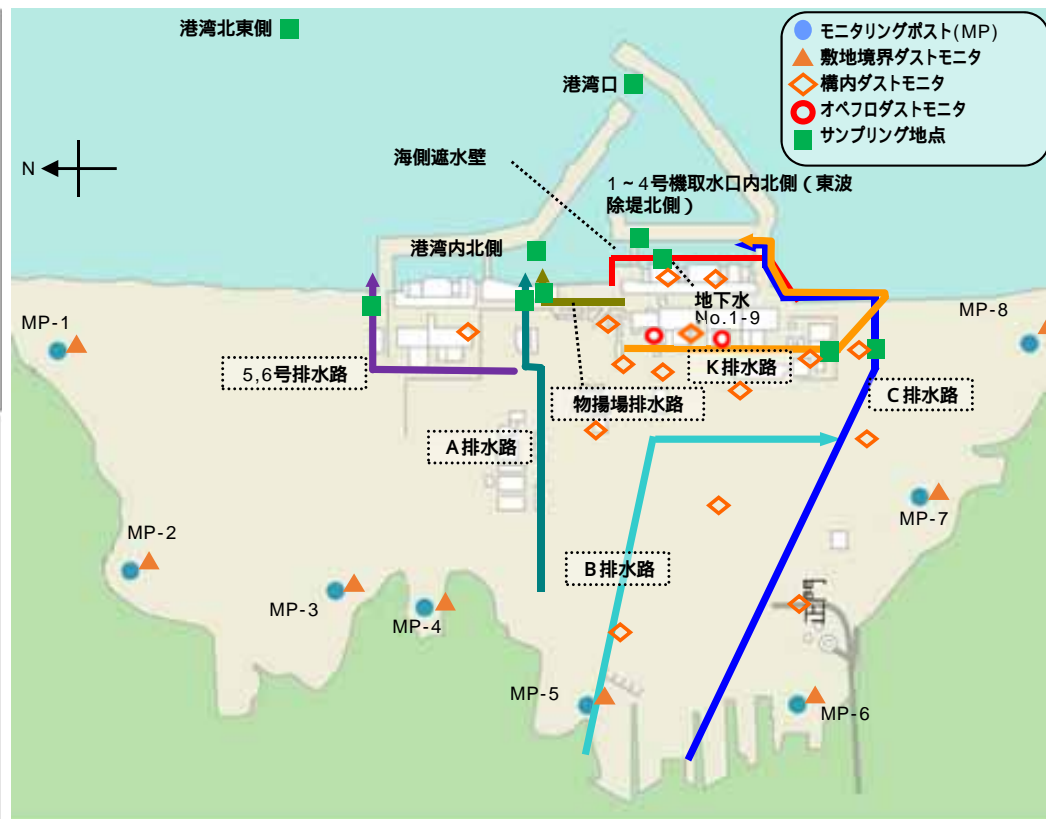
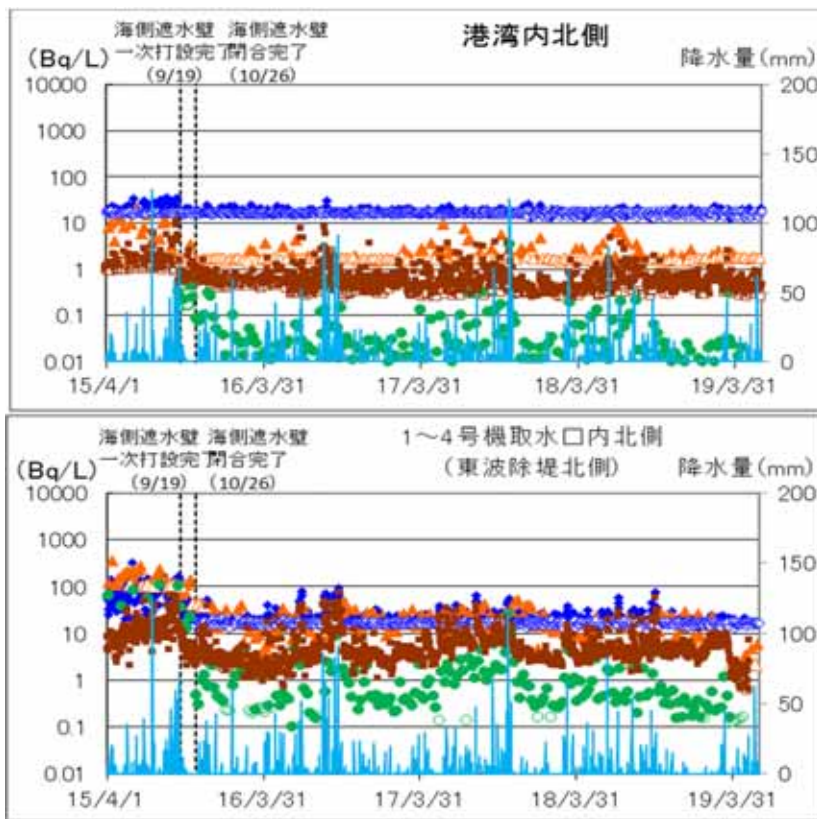
●敷地内ダスト（粉じん）濃度は安定

1号機では、2018年1月22日から原子炉建屋上部にあるオペレーティングフロアのガレキ撤去を実施中。2号機では、燃料取り出しに向け、原子炉建屋オペレーティングフロア内において、2019年4月8日から2回目となる残置物移動・片付作業を実施中。いずれもこれまで同様、敷地境界を含め、敷地内ダストモニタのダスト濃度に有意な変動はない。

●港湾内海水の放射性物質濃度は低い濃度で安定

港湾内北側に係留していたメガフロートを、開渠内南側へ移動し現在係留中。メガフロートの移動に伴い、シルトフェンス開閉作業や係留用のブロック設置等の工事も慎重に実施し、1～4号機取水口内北側（東波除堤北側）の海水中セシウム濃度は低い濃度で安定した状態を継続。

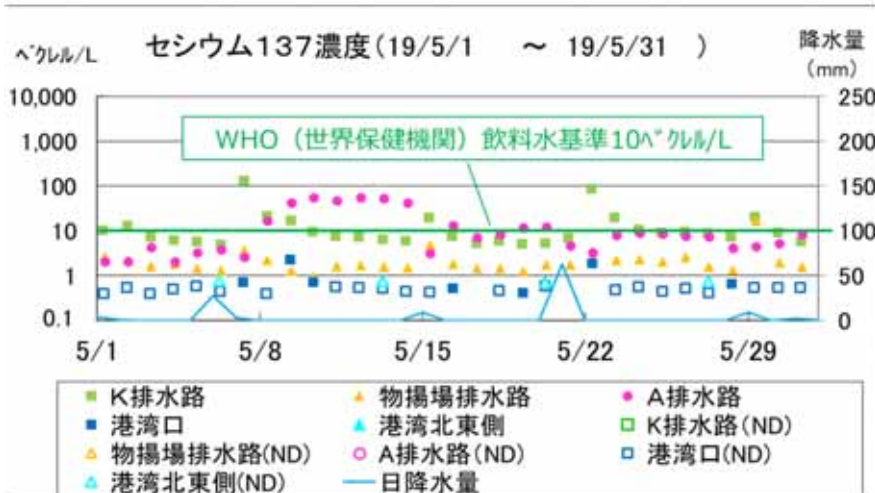
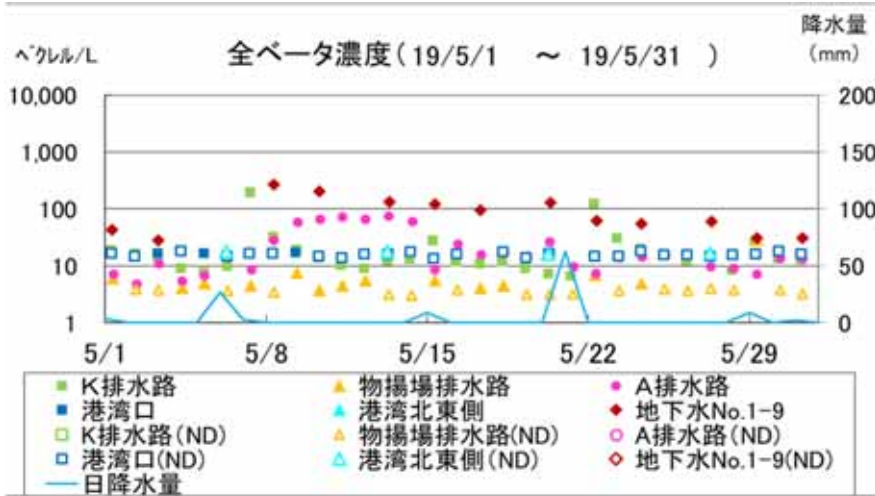
海水中放射性物質濃度



放射線データの概要 5月分詳細（5月1日～5月31日）

A 水（海水、排水路、地下水等）

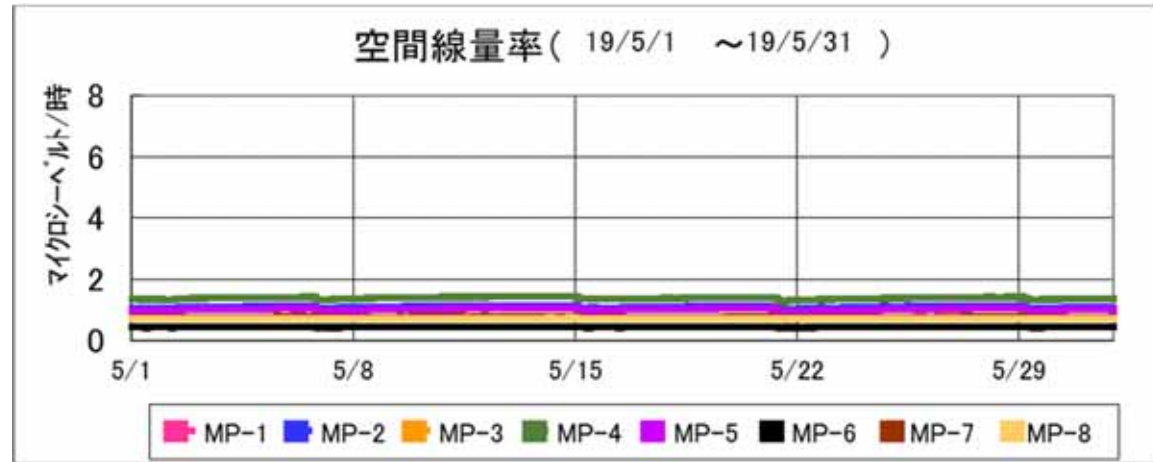
- 5/6～7の降雨後に、護岸地下水No.1-9の全ベータ濃度、A排水路の全ベータ濃度、セシウム137濃度が上昇したものの、その後は低下傾向。
- セシウム137濃度は、上昇時のA排水路、降雨時のK排水路を除き、概ねWHO飲料水基準を下回った。



全ベータとは、ベータ線を放出する全ての放射性物質。カリウム、セシウム、ストロンチウム等が含まれる。
 海水の全ベータについては、天然の放射性カリウムが約12ベクレル/L含まれている。
 (ND)は、不検出との意味で、グラフには検出限界値を記載。
 地下水 1-9については全ベータ濃度で監視。

B 空間線量率（測定場所の放射線の強さ）

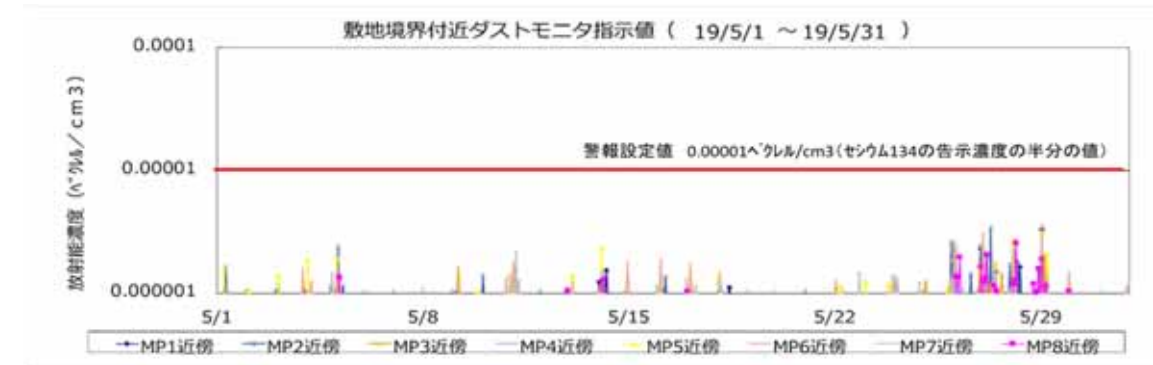
- 低いレベルで安定。



敷地境界における1時間あたりの線量率を3マイクロシーベルトとすると、例えば1ヶ月間この場所で作業を行った場合（1日あたり8時間、20日間作業をしたと仮定）の被ばく線量は約0.5ミリシーベルトになります。

C 空気中の放射性物質

- 大きな上昇はなく、低濃度で安定。

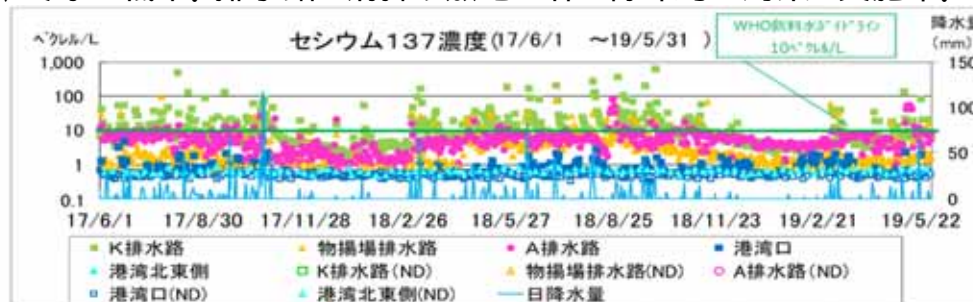
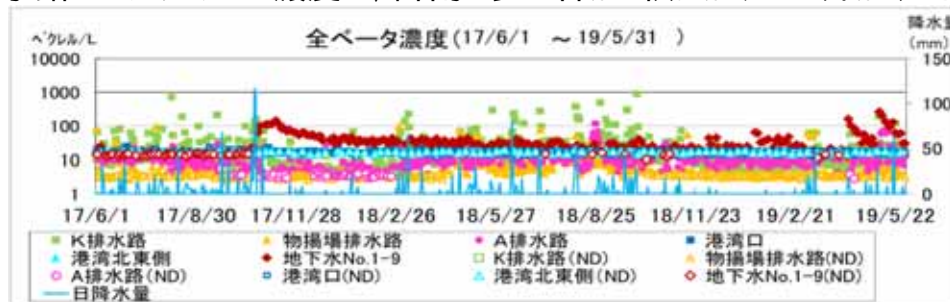


告示濃度とは、法令に基づき国が排出を認める濃度。国内の原子力施設共通の基準

放射線データの概要 過去の状況

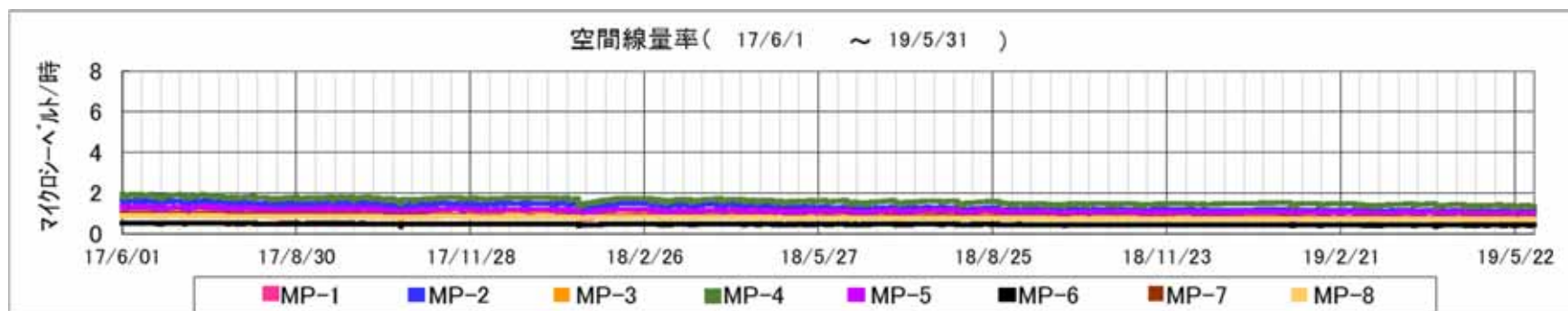
A 水（海水、排水路、地下水等）

- ・港湾口は低水準で安定。セシウム137はWHO飲料水基準未滿。
- ・K排水路のセシウム137濃度は、降雨の多い春から秋にかけて上昇がみられ、冬季は低下。排水路の清掃や敷地全体の除染等の対策を実施中。



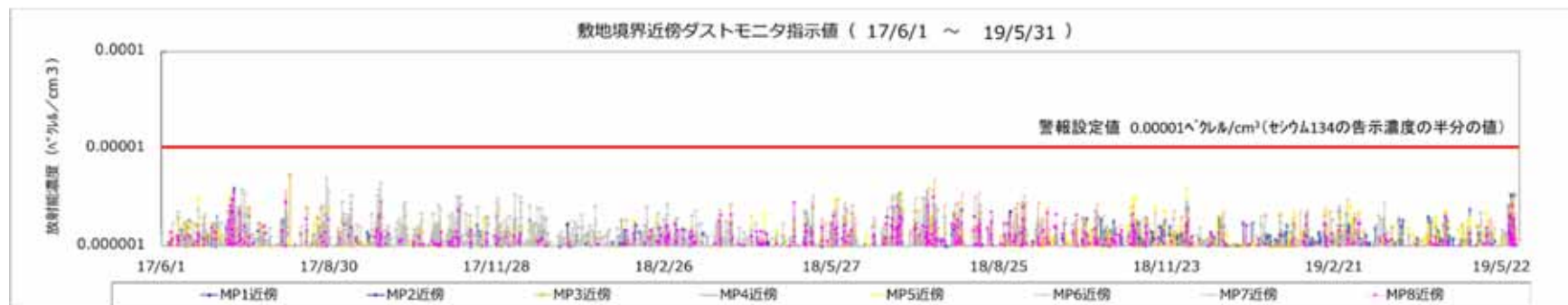
B 空間線量率

- ・汚染水の浄化、除染、フェーシング等により、全てのモニタリングポストにおいて低下傾向。



C 空気中の放射性物質

- ・ダストの濃度は、大きな上昇はなく、低濃度で安定。



サブドレン・地下水ドレンによる地下水のくみ上げと分析

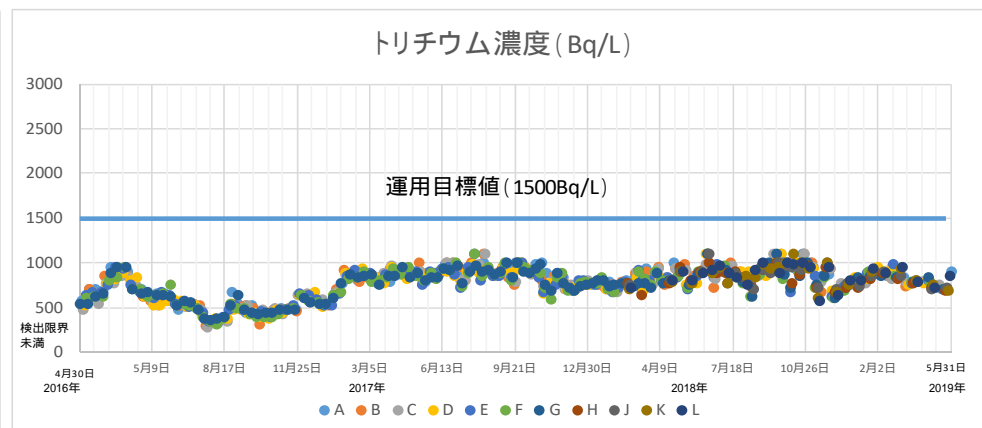
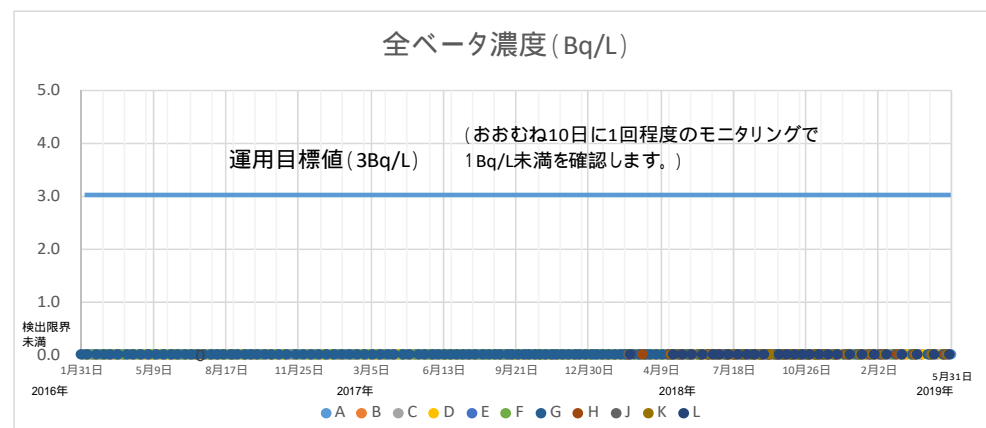
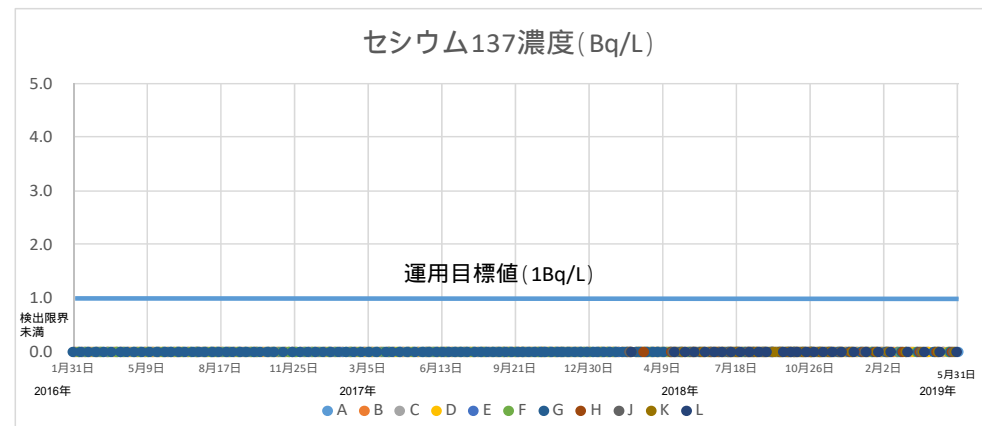
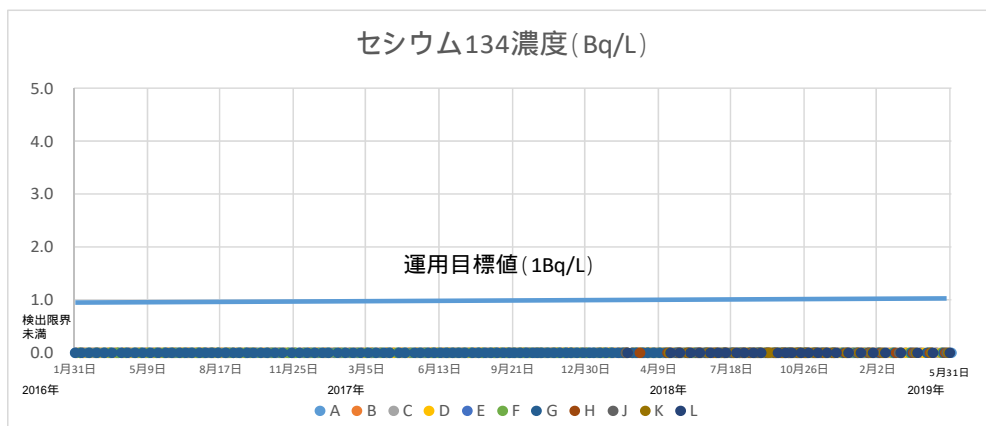
分析結果・排水の実績

一時貯水タンクに貯留しているサブドレン・地下水ドレンの分析結果で、セシウム134、セシウム137、全ベータ（ストロンチウム等）、トリチウムが運用目標値を下回っていること、その他ガンマ核種が検出されていないことを確認。

同じサンプルを第三者機関にて分析を行い、運用目標値を下回っていることを確認して、2015年9月14日から2019年5月31日までに合計**988回**、**686,801 m³**を排水。

引き続き、分析結果が運用目標値を下回っていることを確認した上で排水する運用を徹底。

一時貯水タンクの分析結果（当社分析値）



サブドレン・地下水ドレンの分析結果の詳細については、<http://www.tepco.co.jp/decommission/planaction/monitoring/index-j.html#anc01sd>をご覧ください。